

令和4年度 学校経営方針

学校=公(社会を形成する)・私(なりたい自分を追求する)ための土台づくり

- 秋田県教育の指針 「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」
- 北の学校教育の重点 「確かな学力を身に付け、ふるさとを支えていこうとする強い気概を持った生徒の育成」
- 大館市推進目標 ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化

生徒の実態

保護者・地域の願い

【学校教育目標】 自分の未来とふるさとの未来を切り拓く生徒の育成

【目指す学校像】

- ふるさとと共にある学校
- 東中三大自慢 「あいさつ・歌声・東中太鼓」を掲げる学校

【目指す生徒像・校訓】

- 「立志」 志を立て、自ら高める
- 「友愛」 仲間意識を高め、高いに磨き合う
- 「剛健」 たくましさの中に優しさをもつ

【学校経営のキーワード】

「鳳凰チャレンジ! ~自律・共生~」

- ◆自律 ~ 自らの規範に沿って考え判断し、行動する力
- ◆共生 ~ 違いを理解し、共に支え合って生きていく力

各部の目標と重点

【研究部・学習指導部】

- 「主体的に学習に向かい、進んで表現しようとする生徒の育成」
- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得
 - (2) 共感的・協動的な学び合いを通じた探求型授業の構築
 - (3) 語彙力や表現力、共感的協働力の育成
 - (4) 道徳の時間の充実
 - (5) 諸調査や学習アンケートを基にした授業改善

【教務部：企画・調整】

- (1) 教育目標具現のための教育課程の編成と3指導部の調整
- (2) 感動と達成感につながる行事の企画
- (3) 時教管理と活動を保障する行事予定と日課の工夫
- (4) 学籍資料、教育資料の管理

【特活指導部】

- 「ふるさとを愛し、共に理解し、輝こうとする生徒の育成」
- (1) 共感的協働力に支えられた学級・学年集団の育成
 - (2) アクティブな生徒会活動を促す仕掛けと工夫
 - (3) 「東中三大自慢」を軸とした生徒主体の活動の充実
 - (4) ふるさとキャリア教育の充実
 - (5) ボランティア活動の推進

【生徒指導部】

- 「心と体を鍛え、よりよく生きようとする生徒の育成」
- (1) 生活規律の共通理解と実践
 - (2) 教育相談、生徒支援の充実、不登校対応
 - (3) 健康と体力の保持推進
 - (4) 安心・安全で美しい学校づくり

【地域への展開・貢献】

◎ふるさとの未来を切り拓く活動

東中ボランティア・大館きりたんぼまつり
「あいさつ・歌声・東中太鼓」

【地域人材・組織の活用】

◎自分の未来を切り拓く活動

キャリア講話・職場体験・高校体験入学
子どもハローワーク

【支える教師の在り方】

- 教育目標具現に向けて、積極的に経営参画できる教師
 - 生徒理解に努め、個性の伸長を図ることができる教師
 - 学ぶ楽しさや意欲を引き出し、分かる授業実践できる教師
 - 教育公務員としての自覚をもち、職責遂行に努める教師
 - 学び合い、教え合うことで互いを高め合える教師
- 【OneTeam・豊かな人間性・授業改善・責任・OJT】

【支える家庭・地域】

- 安心・安全に生活できる家庭・地域
 - 優しく見守り、温かく声をかける家庭・地域
 - 学校と連携して生徒を育てようとする家庭・地域
- 【学校と生徒の応援団】

Team 東中

| | | | | |
|-----------------------------|--------|--------------------|---|----------------------------------|
| 自己評価 Aと外部 評価の評 価区分 | きわめて良好 | 自己評価 Bの評価 基準 | 5 | 実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して100%達成 |
| | 良好 | | 4 | 実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対して80～99%以上達成 |
| | おおむね良好 | | 3 | 実現状況はおおむね良好／数値目標に対して60～79%以上達成 |
| | やや不十分 | | 2 | 実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して40～59% |
| | 努力を要する | | 1 | 実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して39%以下の達成 |

ア
生徒の
状況

I 自主的・自律的な生活

| 生徒の状況 | | 自己評価A | 学校関係者評価 | 学校関係者評価委員のコメント |
|---------------------------------------|----|--------|---------|--|
| 仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。 | 前期 | おおむね良好 | 良好 | 生徒が素直で、気持ちのよい挨拶ができています。3年生の姿を見て、1・2年生が育っているのが東中のよさである。SCの活用や、生徒が悩み事を気楽に話したり、相談できているようで、外部との連携が図れている。 |
| | 後期 | おおむね良好 | 良好 | マスクの影響で、挨拶の声が小さく感じるが、自主的に生活しているように感じている。元気な挨拶は気持ちが良いので、これからも大切にしてほしい。また、生徒会の挨拶運動をこれからも継続させてほしい。 |

| | |
|----------------|--|
| 自己評価の概要と学校の改善策 | <p>【前期（→年度）】</p> <p>全学年とも約95%の生徒が「楽しく学校生活を送っている」と回答している。また、元気なあいさつや清掃への取組は昨年度より数値が上がっており、東中三大自慢の1つ「あいさつ」を意識した生活を送っている様子がうかがえる。しかし、教師アンケートでは、元気なあいさつについては肯定的な意見が78%になっており、あいさつの意義について意識を高める指導をしていきたい。相談活動については、毎月の「振り返りカード」が有効に活用されており、教師アンケートでは保健室やSC、外部機関との連携について肯定的な回答が100%であった。今後もチームで即時対応できるようにしていきたい。</p> |
| | <p>【後期（→次年度）】</p> <p>全校生徒の97%の生徒が「楽しく学校生活を送っている」と回答している。多感な中学校生活において、上手い出来ないこともあるが、相談活動の充実の数値が高いところが、他者に相談できたり、捉え方を変えたりすることのきっかけになり、前向きに学校生活を送ることにつながっているのではないかと考える。挨拶については前期に続き、肯定的な評価は生徒が97%、保護者が88%、職員が78%と捉え方に開きがある。挨拶はお互いが爽やかな気持ちになるように、形式だけではなく相手目線で行うためにはどうあるべきか考えて行動させることで、今一度本質に迫れるように仕掛けていきたい。</p> |

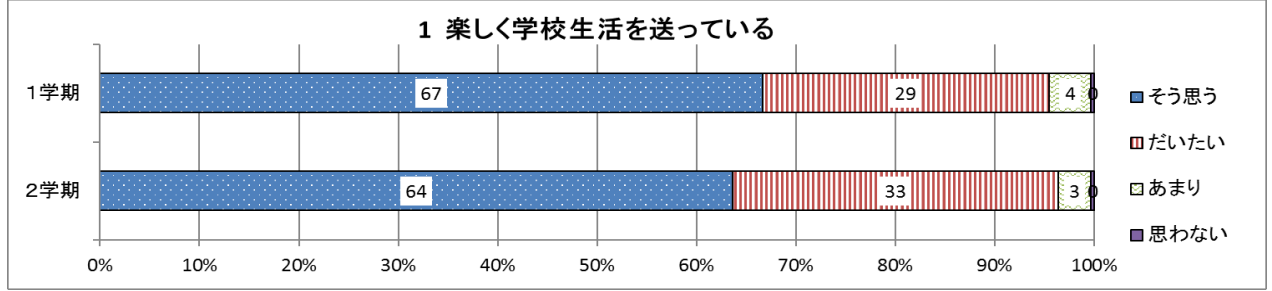
| 評価指標 | 実践課題 | 主な取組 | 自己評価B | |
|------------|--------------------------|-------------------------------------|-------|----|
| | | | 前期 | 後期 |
| 1 基本的な生活習慣 | (1) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導 | 年間を通したあいさつ運動 清掃指導 | 3 | 3 |
| | (2) 自律的な学校生活 | 生活のきまりの厳守 時間の意識化 週番活動 | | |
| 2 相談活動の充実 | (3) 生徒指導の三機能を生かした指導 | 教育相談 人間関係づくりの推進 | 4 | 4 |
| | (4) 積極的な生徒理解と連携 | 毎月の振り返りアンケート 保健室・家庭との連携 SCや外部機関との連携 | | |

【評価指標 1】 基本的な生活習慣

生徒

1 学期
3.62

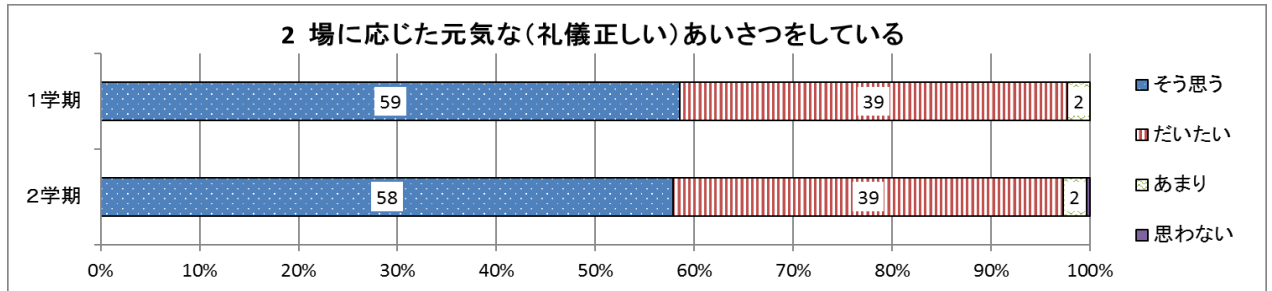
↓
2 学期
3.60



生徒

3.56

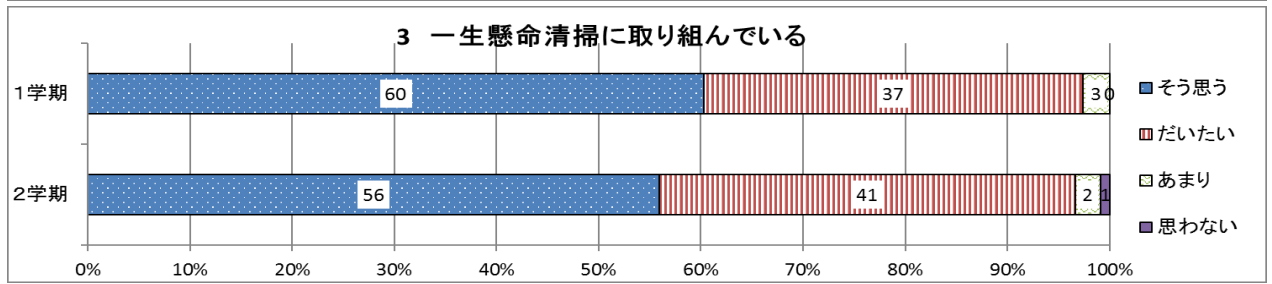
↓
3.55



生徒

3.58

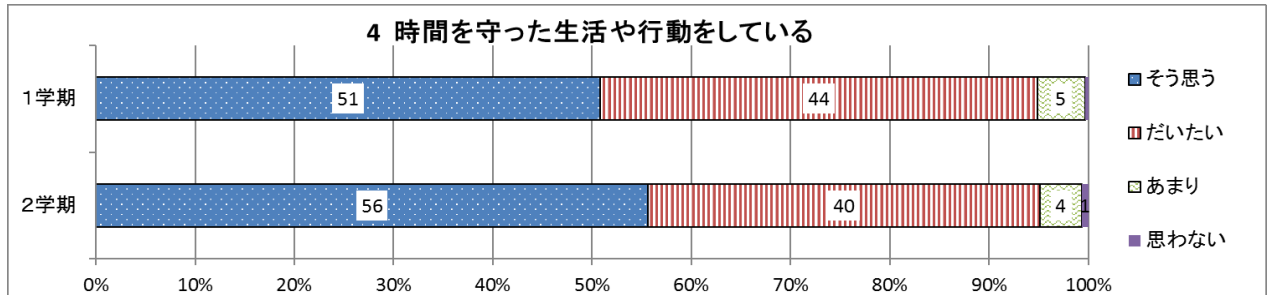
↓
3.52



生徒

3.45

↓
3.50

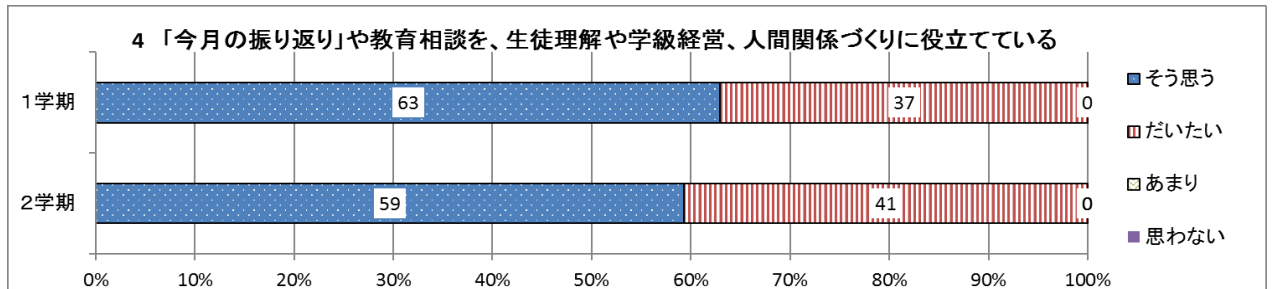


【評価指標 2】 相談活動の充実

教師

3.63

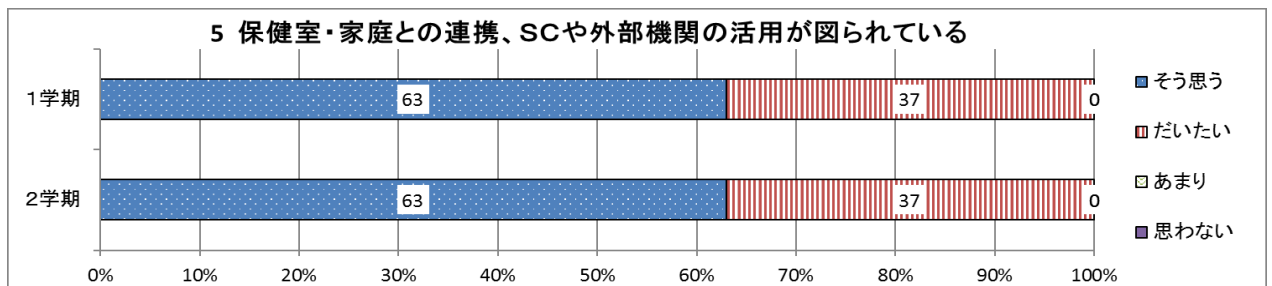
↓
3.59



教師

3.63

↓
3.63



Ⅱ 思いやりとたくましい心

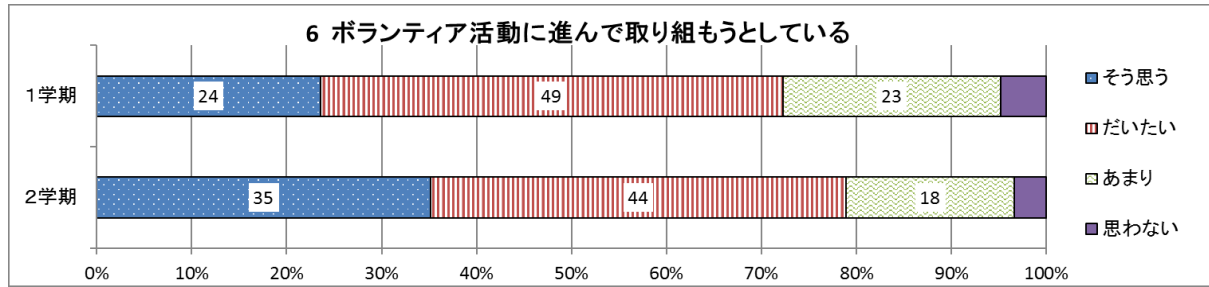
| 生徒の状況 | | 自己評価A | 学校関係者評価 | 学校関係者評価委員のコメント |
|--|--|--------|---------|--|
| 互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。 | 前期 | おおむね良好 | 良好 | 友だちや先生方との関係づくりがよく、信頼関係が築かれている。ボランティア活動はコロナ禍で仕方がないので、きりたんぼまつり、東中ボランティアなどに期待したい。 |
| | 後期 | おおむね良好 | 良好 | きりたんぼまつりでの東中生のボランティア活動は素晴らしい。一生懸命な姿が印象的で、よく育っている。 |
| 自己評価の概要と学校の改善策 | <p>【前期（→年度）】 豊かな体験活動については、「ボランティア」「職業や将来のこと」の数値が昨年度よりも上昇した。コロナ禍であっても、できる範囲で工夫しながら実施した体験活動や学校行事が生徒の充実感につながったと思われる。「道徳科」についてのアンケートは、昨年度より高い数値を示している。道徳科の授業を全校同じ時間に設定し、学級担任間や学年主任と情報交換をしながら取り組んでいる。夏休みに実施した道徳の研修を2学期以降に生かしていきたい。「友だちや先生方とのよりよい関係」の数値も昨年度よりも上昇している。朝・帰りの会での学級プログラム、ねらいを明確にした学年集会などは、集団での所属感や共感的協働力を高めることにつながったと考えられる。</p> <p>2学期には、学校祭や地域での東中ボランティア、きりたんぼまつりボランティア、東中太鼓の伝承などの体験活動を予定している。生徒が自分の進路選択や将来について考えを深める大事な機会と捉え、生徒の意識を更に高めていきたい。また、2学期は「東中三大自慢」に関わる活動が多くなる。愛校心や郷土愛の醸成に向け、それぞれの活動ねらいを明確にして、学びのある活動にしていきたい。</p> | | | |
| | <p>【年度（→次年度）】 豊かな体験活動については、「ボランティア活動」「共感的協働力」の項目において、前期比で数値が上昇した。今年度は、3年ぶりに大館きりたんぼまつりボランティアが実施されたことや、例年行っている東中ボランティアを午後日程に変更したことで新たに稲刈り等の活動を行うことができた町内があり、活動の幅が広がったことが影響していると考えられる。しかしながら、町内の生徒は年々減少しており、中学生がいない町内も増えてきている現状にある。町内との関わりは不可欠ではあるが、持続可能なボランティア活動であるためには、活動の内容や日程も今後検討していかなければならないと感じる。</p> <p>集団生活の向上については、「友達や先生方とよりよい関係を築こうとしている」「東中三大自慢を意識して学校生活を送っている」の項目において、前期比で数値の低下が見られた。2学期は行事が多くこれらの項目が上がりやすかったにも関わらず、数値が低下していることに危機感を感じる。コロナ禍となり、コロナ以前に比べると行事の規模や学年間の交流が少なくなっているのは事実ではあるが、行事に向かう雰囲気作りや意識付けにの場面において、教師サイドの共通認識不足、生徒への働きかけ不足があったことも否めない。</p> <p>働き方改革が叫ばれるなか、学校行事も精選と磨き上げの段階に突入している。次年度は、行事のねらいと生徒に身に付けさせたい力を明確化し、若手・ベテランにムラなく意思の疎通を図った上で、生徒主体の集団活動が行われるようにしていきたい。</p> | | | |

| 評価指標 | 実践課題 | 主な取組 | 自己評価B | |
|-----------|--|---|-------|----|
| | | | 前期 | 後期 |
| 3 豊かな体験活動 | (5) 愛校心、郷土愛の醸成 ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導 | 東中ボランティア、きりたんぼまつりボランティア 子どもワークへの参加 職場見学、職業講話：1年生 職場体験学習、大館PR活動：2・3年生 | 3 | 3 |
| 4 集団生活の向上 | (6) よりよい生活や人間関係の構築 | 学校教育活動全体を通じた道徳教育 学級プログラム・係活動での一人一役 鳳凰集会などの話合い | 3 | 3 |
| | (7) 共感的協働力を高める集団活動 | 東中太鼓の伝承 心一つに響き合う歌声活動 学校行事や生徒会行事の充実 | | |

【評価指標 3】豊かな体験活動

生徒
1学期
2.91

↓
2学期
3.11

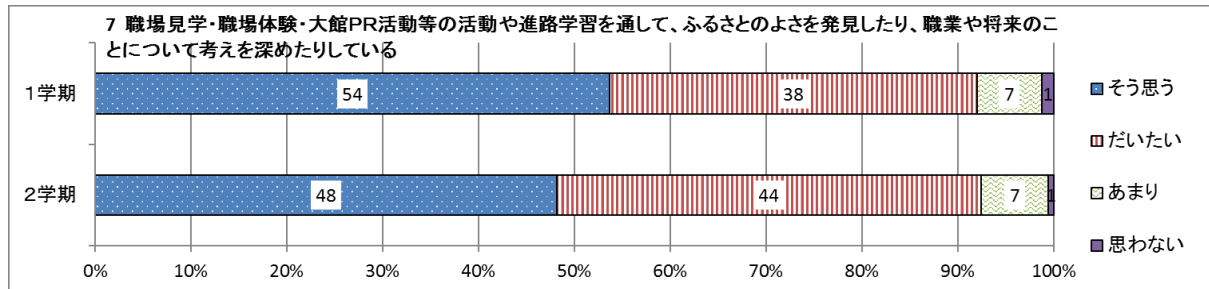


生徒

3.44

↓

3.40

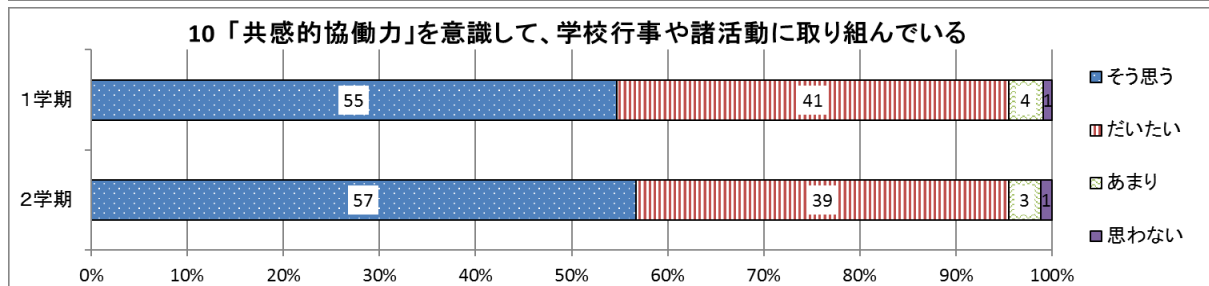


生徒

3.49

↓

3.51



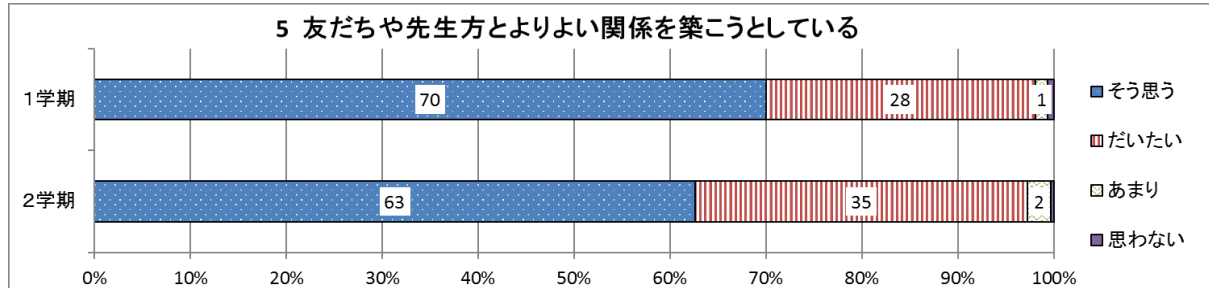
【評価指標 4】集団生活の向上

生徒

3.67

↓

3.60

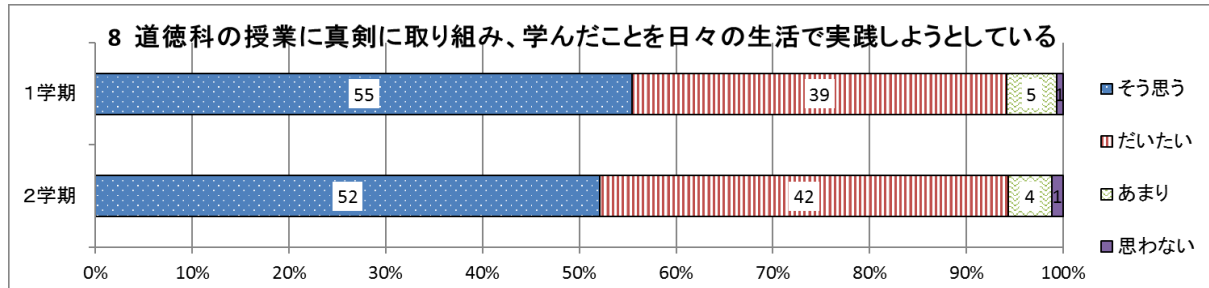


生徒

3.49

↓

3.45

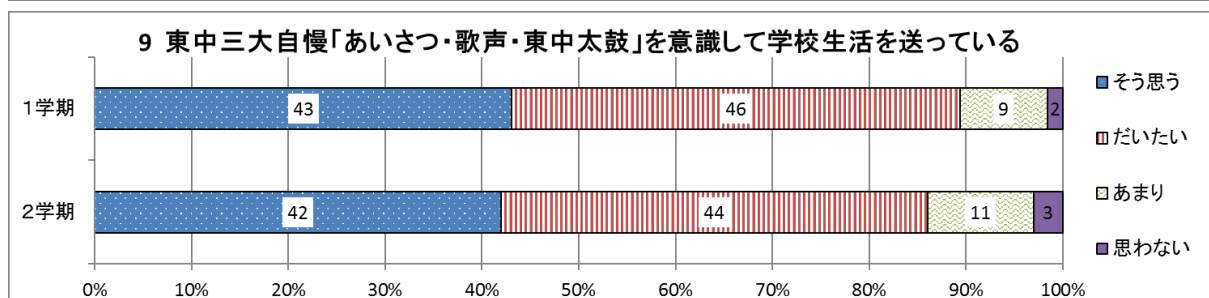


生徒

3.31

↓

3.25



Ⅲ 基礎学力

| 生徒の状況 | | 自己評価A | 学校関係者評価 | 学校関係者評価委員のコメント |
|-------------------|----|--------|---------|--|
| 基本的な学習習慣を身に付けている。 | 前期 | おおむね良好 | おおむね良好 | 東中スタンダードの取組がよい。年度当初に先生方・生徒たちで共通理解する場を設けて実践しているのが効果的である。スマホやタブレットの使い方については、家庭の協力を得てほしい。 |
| | 後期 | おおむね良好 | おおむね良好 | 自己評価だが、8ポイントも上がっている。家庭学習があまり高くないのは、スマホやゲームの影響だと思う。授業がいい感じで進められている。男女仲よく学んでいる雰囲気がよい。 |

自己評価の概要と学校の改善策

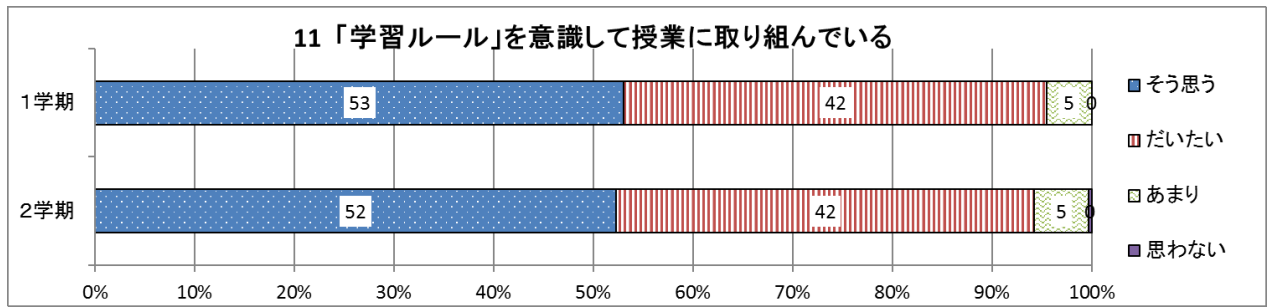
【前期（→年度）】
「学習ルールを意識した授業の取組」では昨年度よりも数値が上がった。「東中スタンダードを意識した授業」の回答も肯定的意見が100%になっており、教師が学習規律を意識した授業を行っていることがうかがえる。ただ、「そう思う」が20%になっている。「そう思う」と回答できる教師の割合が増えれば、生徒の数値はさらに上がると思われる。また、教科や学年によって授業への意識・取組に差が見られる。望ましい学習習慣を身に付けることができるように共通実践していきたい。
「効果的な家庭学習を行っている」については、学年の差は多少あるが87%が肯定的に回答している。しかし、今年新たに設けた「学習に適した環境で集中して家庭学習に取り組んでいる」（保護者）は、肯定的な回答が66%にとどまっている。メディア使用が影響していると考えられる。家庭学習のアンケート結果から、生徒と保護者の間で家庭学習に対する意識のズレが見られる。現在、生徒が工夫して行っている家庭学習を励ましなが、より集中できる学習環境について家族で考える話題を提供したい。

【年度（→次年度）】
「学習ルールを意識した授業の取組」は若干数値が下がったが、ほぼ横ばいで94%が肯定的な回答をしている。夏休み明けや定期テスト前後など、機を逃さずに学習ルールについて指導することができたことが、生徒の学習ルールに対する意識を維持する要因になったのではないかと考えられる。今後は生徒会活動など生徒の自治的活動の中でも、学習ルールを確認したり考えたりする活動を取り組んでいきたい。「東中スタンダードを意識した授業」の回答では1学期と同様に肯定的回答が100%で、「そう思う」の回答が増えた（1学期20%→28%）。教科や学年によっての取組の差が小さくなり、教職員が授業規律について同じ思いをもって指導し、共通実践を図ることができたと考えられる。生徒一人一人への個別の指導や生徒指導機能を生かす指導がさらにできるようになれば、「学習ルールを意識した授業の取組」の肯定的回答の割合も大きくなるのではないかと考えられる。
生徒の「家庭学習ノートの活用」については、数値は若干上がったが、ほぼ横ばいで88%が肯定的な回答をしている。特に1年生について肯定的な回答が増えており、中学校入学後に学習方法を改善しながら学習してきたことが考えられる。今後も参考となる家庭学習の取組を紹介する工夫などを行ってほしい。また、コロナウイルスの影響で出席停止生徒が多かったが、放課後や長期休業中の学習相談会へ自主的に参加する生徒が増え、授業の遅れを自分で取り戻そうとしている。「分からない」ことを自分で解決しようとする生徒が増えたことも数値の変化に表れているのではないかと考えられる。しかし、依然として家庭学習の取組に課題が見られる生徒が一定数いることも事実である。そういった生徒への支援や具体的な取組についての指導をしていく必要がある。「学習に適した環境で集中して家庭学習に取り組んでいる」（保護者）の数値は年度当初に比べて上がった。保護者は、生徒が学習に適した環境で家庭学習に取り組んでいると実感していることが読み取れる。生徒指導部からネット利用についての指導やテスト期間中のメディアコントロール週間の実施などが家庭で生徒が学ぶ姿や意識の変化に影響を与えたことが考えられる。しかし、他の項目と比べまだまだ数値が低い項目でもある。生徒指導部と連携しながら、好ましい家庭学習の在り方や、家庭でのルール作りについて啓発していきたい。

| 評価指標 | 実践課題 | 主な取り組み | 自己評価B | |
|------------|-----------------|-------------------|-------|----|
| | | | 前期 | 後期 |
| 5 基本的な学習習慣 | (8) 望ましい学習習慣の確立 | 東中スタンダードの定着と深化 | 3 | 3 |
| 6 充実した家庭学習 | (9) 効果的な家庭学習の支援 | 目的意識をもたせた家庭学習への支援 | 3 | 3 |

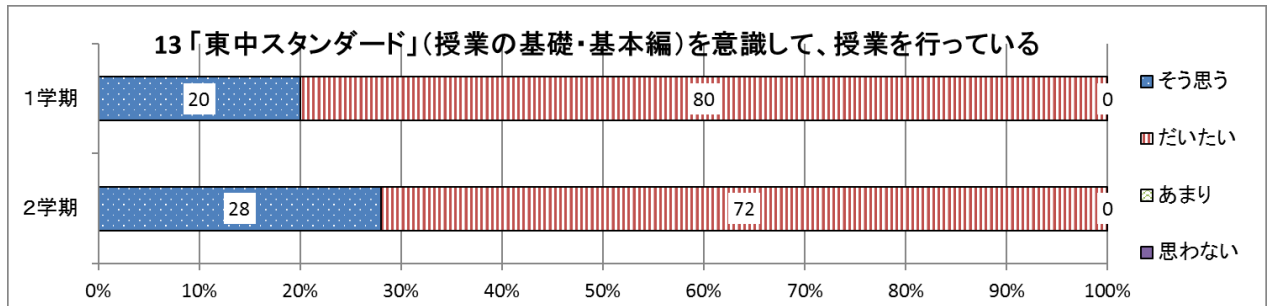
【評価指標5】基本的な学習習慣

生徒
1学期
3.49
↓
2学期
3.46



教師

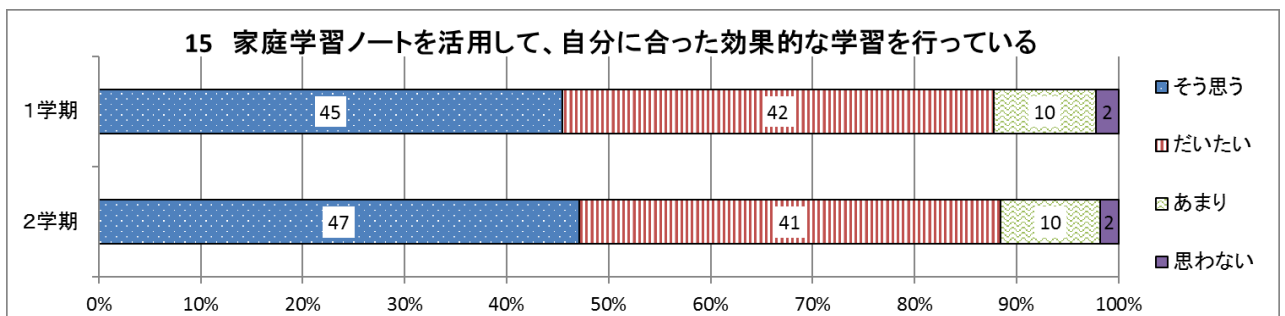
3.20
↓
3.28



【評価指標6】充実した家庭学習

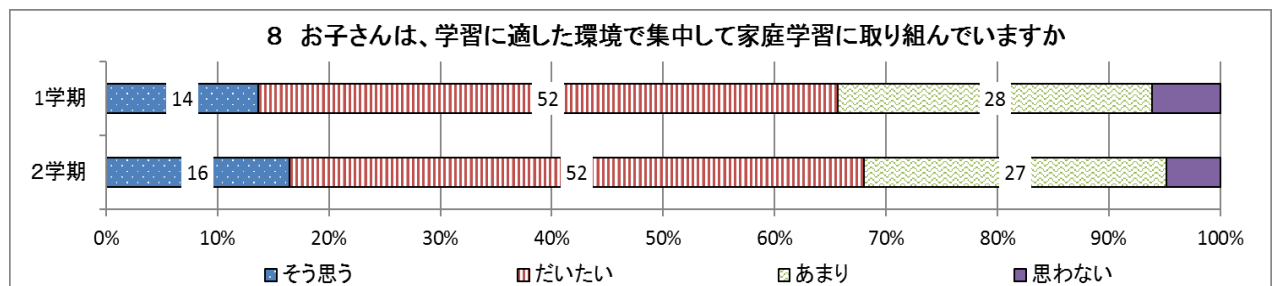
生徒

3.31
↓
3.34



保護者

2.73
↓
2.80



IV 教師の研修

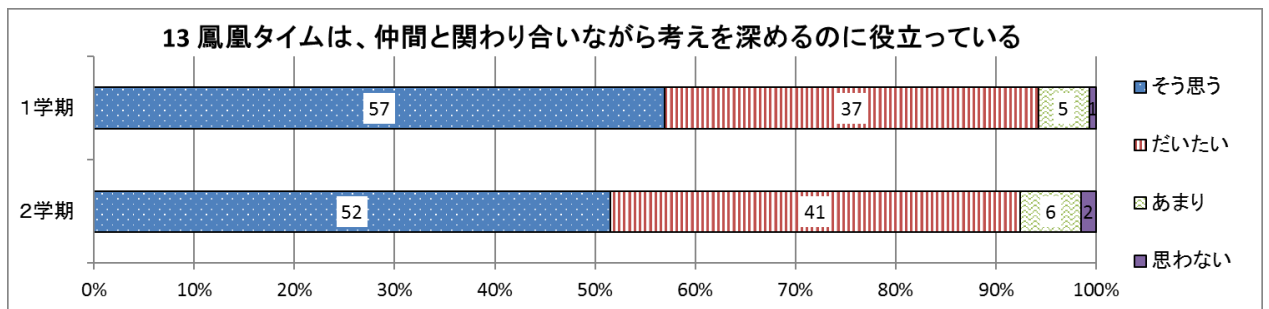
| 学校の状況 | | 自己評価A | 学校関係者評価 | 学校関係者評価委員のコメント |
|---|----|--------|---------|--|
| 学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。 | 前期 | おおむね良好 | 良好 | 鳳凰タイムが効果的に機能しており、先生方の熱心さが伝わってくる。まだまだ伸びしろがあるので期待している。 |
| | 後期 | 良好 | おおむね良好 | 東中スタンダードが定着している。生徒アンケートで下がっている項目は、分析と改善が必要である。対話できる授業が減った弊害もあるだろうから、今後の期待値が高い。 |

| | |
|----------------|--|
| 自己評価の概要と学校の改善策 | <p>【前期（→年度）】</p> <p>今年度は、4月の学習集会で「鳳凰タイム」について教師と生徒で共通理解し実践してきた。「鳳凰タイムが役立っている」は94%が肯定的な回答をしており、授業での学び合いが自分の考えを深める有効な手立てになっていることを実感していることがうかがわれる。4月の東北都市教育長協議会の参観授業でも高評価をいただいた。しかし、「先生方は熱心に授業をしている」「鳳凰タイムを設定し、生徒が互いに学び合い、高め合う姿を引き出している」の数値は若干下がっている。生徒の主体的な学びを創る授業づくりの柱となる「鳳凰タイム」の実践に力を入れながら、今後も生徒にとってやりがいのある授業を全職員一丸となって目指していきたい。</p> <p>5月の校内研修会では、各教科の「見方・考え方」「鳳凰タイムの深化」について研修を行った。また、年度当初には研究主任と若手教員を中心に学級経営についての研修を行った。「研究部報、外部の研究会の報告や情報、自校の研修会で学んだことを指導力の向上に生かしている」の数値が昨年度よりも上がっている。今後も研究の共通実践事項を確実に進めていきたい。</p> |
| | <p>【年度（→次年度）】</p> <p>教師アンケートでは、「鳳凰タイムの取組」に関する数値が前期と比べて上がっている。生徒が活躍し、輝く姿を引き出そうと、「鳳凰タイム」を軸に授業改善に取り組んだ、本校職員の意識の高まりが感じられる。また、「研究部報や研修会等で学んだことを指導力の向上に生かしている」の肯定的割合が100%となり（4段階が44%、3段階が56%）、自分の授業力を見つめ、前向きに共通実践事項に取り組んだ、本校職員の指導の姿が読み取れる。一方で、生徒アンケートでは、「鳳凰タイム」や「教師の授業への取組」について、前期よりも数値が若干下がっている。授業における教師の指導の工夫が、生徒の学びの喜びや達成感につながるよう、研修会や教科部会等で指導の現状を見つめ、更に研鑽を重ねていきたい。</p> <p>8月の第2回校内研修会では、①2学期の「チーム東中」指導の重点の確認、②2学期の授業改善の重点の確認、③道徳科の授業づくりについて研修を深めた。2学期の指導の重点は「生徒の挨拶の深化」に協議で決定したが、授業における授業規律や生徒指導機能ということを含めて、全職員で確認できたことは大きかった。年度末までの日々を、次年度までのステップアップと捉え、全職員で授業の質向上を目指し、生徒に「確かな力」を付けられるように前進していきたい。</p> |

| 評価指標 | 実践課題 | 主な取組 | 自己評価B | |
|-------------|----------------------------|-------------------------------------|-------|----|
| | | | 前期 | 後期 |
| 7 授業改善の推進 | (10) 単元構想力の向上 魅力ある導入の工夫 | 各教科の見方・考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用 | 3 | 3 |
| | (11) 共感的・協働的な学びの追究 | 教師のコーディネートの力の向上 鳳凰タイムの深化 振り返りの充実 | | |
| 8 研修の実施及び活用 | (12) 研究会を通しての指導力の向上 | 研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施 | 3 | 4 |
| | (13) 各教科での取組の共有 | 教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携 | | |

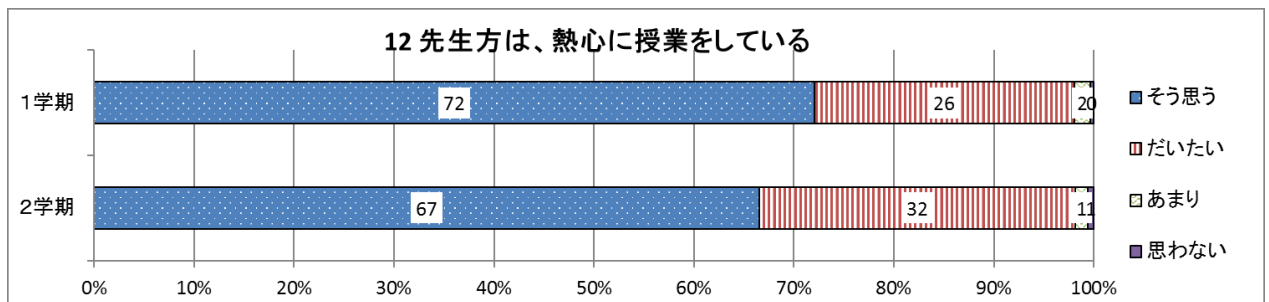
【評価指数7】授業改善の推進

生徒
1学期
3.50
↓
2学期
3.42



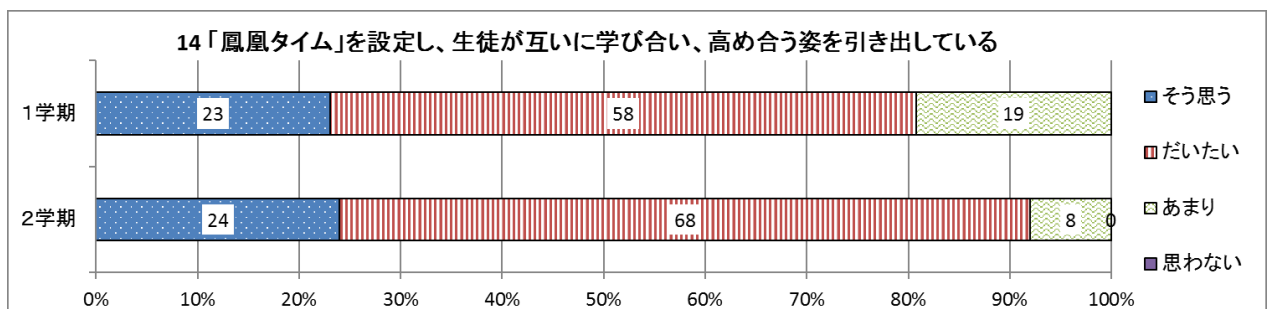
生徒

3.70
↓
3.64



教師

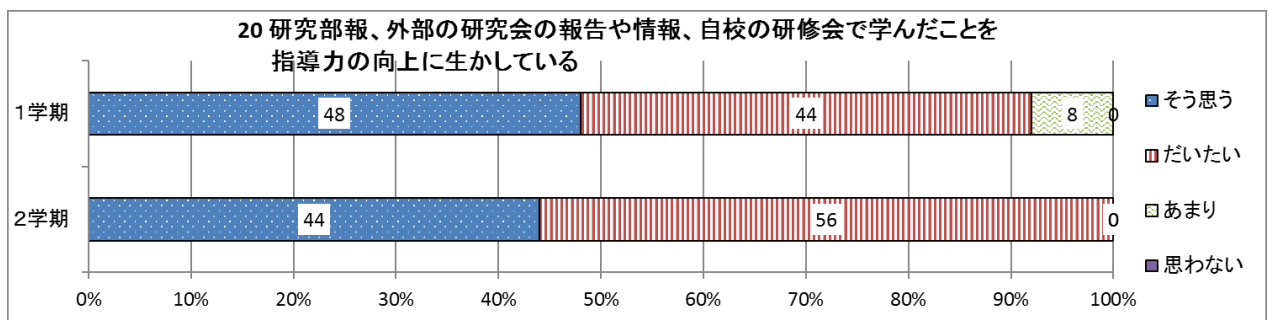
3.04
↓
3.16



【評価指数8】研修の実施及び活用

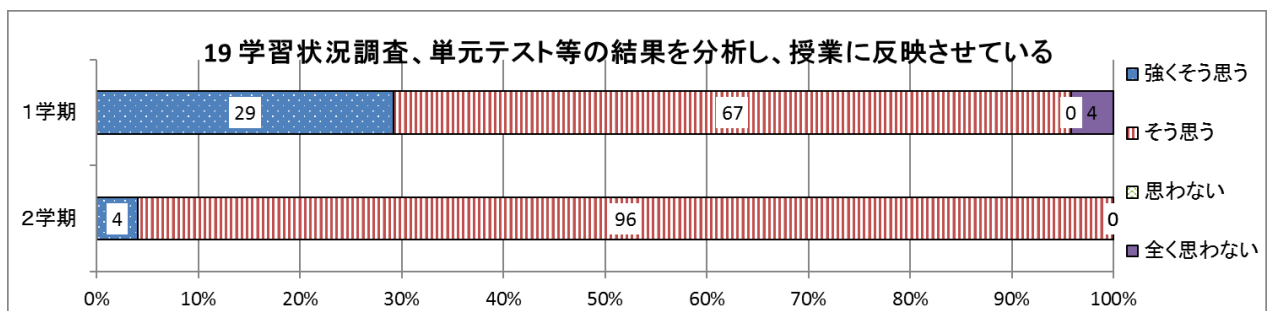
教師

3.40
↓
3.44



教師

3.21
↓
3.04

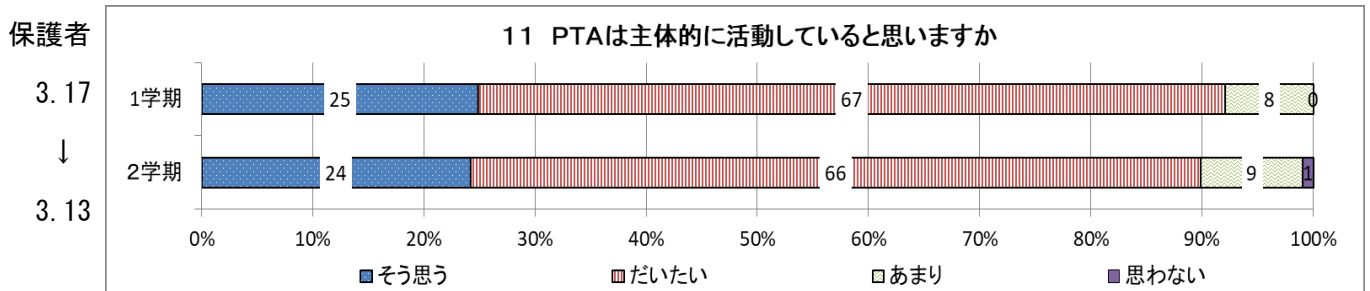
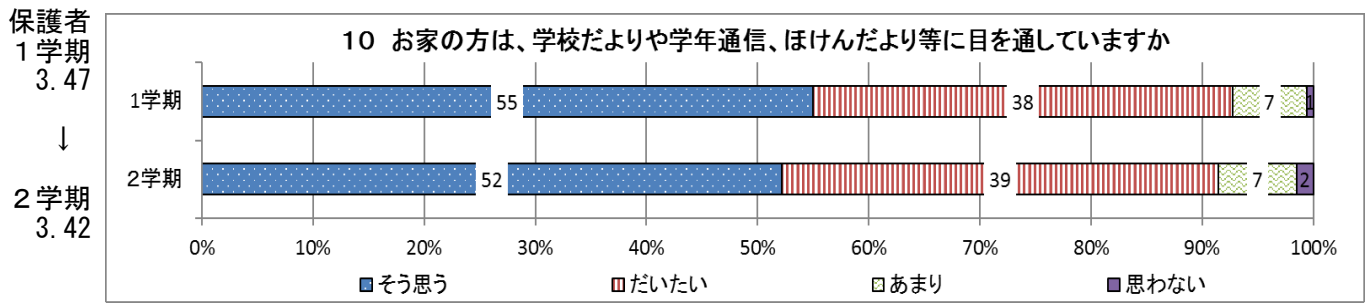


V 保護者・地域との連携

| 学校の状況 | | 自己評価A | 学校関係者評価 | 学校関係者評価委員のコメント |
|---|---|--------|---------|--|
| 学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。 | 前期 | おおむね良好 | おおむね良好 | 「ちょこボラ」の取組は、保護者が参加しやすい工夫がされている。今後保体部の取組にとどまらず、保護者が参加しやすい体制を整えてほしい。学校報での生徒の活躍は、地域でも楽しみにしている。 |
| | 後期 | おおむね良好 | おおむね良好 | コロナ禍ではあるが、地域と連携してやれることを工夫している。「ちょこボラ」は参加しやすい体制である。多くの人と関わることは大切なので、一斉参加型と両方できるハイブリット型などを模索してほしい。 |
| 自己評価の概要と学校の改善策 | <p>【前期（→年度）】</p> <p>「お家の方は、学校だよりや学年通信、ほけんだより等に目を通していますか」については、肯定的な回答が全校で93%であり、学校や学年の様子がよく伝わっている状況にある。学校や学年の様子だけでなく、経営方針などもさらに分かりやすく伝えるように工夫していきたい。</p> <p>「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で92%であるが、昨年度よりも数値が低下した。コロナ禍で活動が制限されていることもあるが、PTA保体部が主催する「ちょっこボランティア」など新しい形を模索しながらPTA活動を充実させていきたい。</p> <p>「学校は、地域人材の活用、職場体験・訪問等、地域と連携した活動に取り組んでいると思いますか」については、肯定的な回答が全校で98%であり、極めて良好である。今後も、地域貢献やボランティアの意義を理解させながら、東中生が地域を活性化する活動に取り組ませたい。また、教師の89%が地域の人材を有効に活用していると答えており、職場体験学習・職場訪問等において地域の方々の協力が大きいことがうかがえる。今後も、地域人材の効果的な活用方法を探っていきたい。</p> | | | |
| | <p>【年度（→次年度）】</p> <p>「お家の方は、学校だよりや学年通信、ほけんだより等に目を通していますか」については、肯定的な回答が前期より2ポイント下がったが、全校で91%であり、前期同様良好な状況にある。また、保護者メールはコロナ関係が多かったが、タイムリーに配信することができた。1年生の数値が下がっているため、内容をさらに充実させるとともに、学担から生徒を通してもらうように声かけをしていきたい。</p> <p>「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で90%である。PTA保体部が主催した「ちょっこボランティア」はのべ24人参加があり好評であった。コロナ禍で活動が少し停滞気味であるが、PTA組織の人数や各専門部の活動内容をこの機会に見直していきたい。</p> <p>「学校は、地域人材の活用、職場体験・訪問等、地域と連携した活動に取り組んでいると思いますか」については、肯定的な意見が97%であり、前期に引き続き極めて良好である。2学期に実施した東中ボランティアでは、町内広報に掲載して下さった町内会もあり、地域貢献活動への関心が高いことが感じられた。また、3年生の学級活動では地域の方をゲストティーチャーとして招き、ふるさとや職業観について共に学ぶよい機会となった。今後も、地域とのつながりを大切にしながら、学校教育目標にある「自分とふるさとの未来を切り拓く生徒」を育てていきたい。</p> | | | |

| 評価指標 | 実践課題 | 主な取組 | 自己評価B | |
|----------------|---------------------------|--|-------|----|
| | | | 前期 | 後期 |
| 9 保護者との連携 | (14) 教育方針や教育活動についての効果的な発信 | 教育活動等が見える各種だよりの発行 ホームページ、連絡メールの活用 | 3 | 3 |
| | (15) 行事や諸活動の工夫 | 保護者の活動を通じた協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援 | | |
| 10 地域の教育力の有効活用 | (16) 地域学校協働本部事業等を生かした教育活動 | 地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用 | 3 | 3 |

【評価指標9】保護者との連携



【評価指標10】地域の教育力の活用

